

第2回泉区地域福祉保健推進協議会 議事まとめ

平成23年2月24日に開催された第2回泉区地域福祉保健推進協議会(以下、協議会と略します)の概要について報告します。

I 開催状況

- 1 開催日時 平成23年2月24日(木) 午後1時30分から3時30分
- 2 会場 泉区役所4階ABC会議室
- 3 出席者 計 55人 (出席状況は出席簿参照)
(内訳)

| | |
|----------------------------------|---------------|
| 協議会委員 | 35人 |
| 地域福祉保健計画推進事務局 | |
| 泉区役所(高齢支援課 子育て家庭障害支援課 福祉保健課 保護課) | 6人 |
| 泉区社会福祉協議会 | 4人 |
| 泉区内地域ケアプラザ | 6人(協議会委員1名兼務) |
| 協議会事務局(福祉保健課事業企画担当) | 4人 |

II 内容

1 あいさつ

(1) 泉区福祉保健センター 菊地センター長

前回の会議では委員の皆さんの熱心な活動をご紹介いただき、知り合うことができた。これから、支えあいの地域づくりを進めていくため、具体的な話し合いを続けていただきたいと思います。

(2) 泉区地域福祉保健推進協議会 会長 村井氏

お互いを理解し、相互扶助を進めていくことができる。地区別計画の推進をする地区の皆さんと専門的な高い見地をもつ関係機関がどうつながっていくことが大事で、課題の解決となる。

今日はワークショップ。多くの意見を期待したい。具体的な解決をしていくための「しくみづくり」へ。

2 議題

(1) 泉区地域包括支援センター運営の公正・中立性の確保について(高齢支援課 植木課長)

資料は当日配布。地域包括支援センターの機能について、また、包括支援センターの業務である、介護予防支援事業とその公正・中立性が当区において確保されており、問題のないことを報告した。

(区内地域包括支援センターが作成する介護予防ケアプランのサービスが特定の事業者に偏ったり、特定の事業者の利用を不当に誘導していないかを横浜市がサービスごとに決めた基準に照らし合わせて評価し問題のないことが確認されている。)

(2) 第2期泉区地域福祉保健計画の推進について *資料1~4は会議は開催前に送付済み

①今年度の振り返り（福祉保健課 田村課長）【資料1、資料2参照】

地域福祉保健計画の推進状況について、地区別計画の各地区の取組、関係機関の取組、区計画の取組(地域ケアプラザ、区社協、区役所が主な推進役となって、地区・関係機関と協働して進める区全体にわたる計画)、そして、この協議会取り組みについて、まとめて報告した。

資料2は、地域ケアプラザ、区社協、区役所が各部門の重点事業について、前回は計画をお示しした。今年度、それぞれの取組で区民の皆さんや関係機関とどのような協働がすすんでいるかを視点に自己評価し今後の方向性も示した。(計画票の最下欄)今後の各委員の組織活動についても協力をお願いしたい。

資料1について

(協議会)8月に発足している。今回までの期間も事務局等で、地区、関係機関にインタビューをして、関係機関については資料3でその活動の情報を更新した。また、地区の活動については、活動パネル展を予定しており、今年度のまとめ、成果について情報の提供と情報交換にも役立ててほしい。また、関係機関でも訪問看護ステーション、保健活動推進員について展示がされる予定。また訪問看護ステーションはPR活動をしたいとのことで健康相談コーナーも設けていく予定となっている。

(関係機関)上記説明と【資料3】を参照。

(区計画)重点事業は資料2を参照。

- ・区社協、地域ケアプラザ、区役所が一体となって進めている事業がある。
- ・上飯田団地の見守りのプロジェクトなどは地区との協力ですすめ、今後のモデルとしても参考になる取組であると思う。
- ・アドバイザー派遣事業は和泉中央地区など5地区で活用し地区別計画の活動の推進について協力を得ている。

(地区別計画)各地区の推進については、様々な工夫がされている。例えば

- ①中田地区:地区の話し合いの結果、地区経営委員会の中に地域福祉保健推進のための委員会を位置づけ、地区の組織全体に活動が報告される仕組みになっている。
- ②上飯田地区:認知症でも暮らしやすい地域づくりのために、地区のキャラバンメイトと若い世代(中学生)といっしょの取り組みがある。
- ③新橋地区:地域の人が集まる場所をまとめたマップ更新への活動などがある。地区の取組はまたそれぞれの情報交換や活動展示などを通じて図られるといいと思う。

村井会長から

この1年の状況を事務局から説明、報告した。

資料1は各委員(各地区・関係機関それぞれ)のつながり、連携、問題解決するパートナーの立ち上がりになっていることが報告された。

資料2は区計画が皆さんと連携協働がどういう視点で進もうとしているかが記載されている。連携、協働を充実していくには、皆さんの力が必要で、そのためには「自分を知ってもらうこと」が必要。それは「何を目指し、何をやろうとしているのがわかる」自己情報の発信、これを継続的にしていくべきだと思う。こうした会議で得た情報や活動の報告を集約し、資料を更新し皆さんで活用していくことも役立つ。今日の意見交換も、どんなことが起こっているか、皆さんで確認の場にしてほしい。

②意見交換「皆さんの活動を結びつけるには」【資料4参照】

6つのグループに分かれての意見交換。グループ分けは、前回の協議会で委員が発言された内容で、関心の高かったものになっている。災害、ツール、情報、居場所、交流、見守りの6つ。話し合いの展開については、各委員から活動の紹介と各テーマについての意見と検討とし、お互いに力を借したり借りたいしたいことなど、お互いのつながりをつくり、強いネットワークへのきっかけになるように話を進めてほしい。

・各グループの内容概要は次のとおり。
()内はグループ分けのテーマ【 】はグループメンバー

1グループ(災害)

【中川地区 下和泉地区 消防署 災害ボランティアネットワーク 保育園長会 IHネット】

* 防災は地域のつながりが大事だ

- ・もっと横のつながりから、防災を考えられるといい。
- ・防災は皆さんの共通認識がもてるもの。若い人たちも。このテーマで担い手の教育もできる。消防署はそのための支援ができる。

* 防災は若い人を巻きこめる

- ・中学生はごみ拾いに参加有り。思いをかけると寄ってくる。
- ・家庭での子どもたちの様子が見えにくい。子育て教室等に防災教室などのテーマ取り入れられないか。
- ・災ボラにはボーイスカウトなどの団体も入っていて、つながりが作れる。

2グループ(ツール作り)

【新橋地区 富士見が丘地区 かがやき(障がい施設) 医師会 高齢者施設 生活衛生協議会】

* 高齢者施設での理容、美容のサービス

現在、東京のNPOに依頼して施設に来てもらっている。→生活衛生協議会:協力できる。具体的に希望を伝えてほしい。(窓口は生活衛生課。そこから、理美容院のグループに連絡し調整可能)

* 地区の作っている情報発信ツール

目的による分類:①地区の紹介(住民に地区を知ってもらうもの)②活動を紹介し参加のためのものがある。

①現在あるマップに新しい情報をいれていく。視点としては生活に役立つこと(病院や施設なども入れ込む)やウォーキングコースなどの楽しさを入れたい。

②活動の紹介だけではなく、どこでいつ行うかを、カレンダー方式で3ヶ月に一度発行を試みる予定。

共通した課題:ツールを渡したい人にきちんと渡す方法。このようなツールをどのようにPRできるか。配布と掲示の方法の検討。(情報発信方法のニーズは多様化している。)

* 施設と地域とのコミュニケーションを深めると活動が広がっていく。

* 提案事項 情報の提供

さまざまな地域活動をまとめて調べられるといい。

HP(ホームページ)検索など、調べやすい環境をつくとよい。

3グループ(情報)

【中田地区 和泉北部地区 すきっぷ(地域子育て拠点) 泉警察署 食品衛生協会
薬剤師会】

*情報には①啓発に必要なもの ②個人情報 というが大きく分けて2つある。

①について

自分たちの活動を良く知ってもらうためには啓発活動が必要。方法としては組織力を活用することと、個人に向けた活動とがある。

情報発信に是非協力してほしい。(お互いに)情報は人がつなげるもの。

→すきっぷから薬剤師会へ、すきっぷ紹介リーフレット配架の依頼ができた。

すきっぷはすでに食品衛生協会に協力を得ている。(パンフレットの配架)

②について

個別の支援をする場合に、個人情報の保護の問題で、公共機関等から情報をもらえていない。①とは区別して検討が必要。

4グループ(居場所)

【緑園地区 和泉中央地区 芽生え(精神障害者支援) 歯科医師会(欠)
食生活等改善推進員会 小学校長会(欠)】

*障がいへの理解を深める活動

芽生えから地域や関係機関へ出張サービスで、活動についてアピールを。
(当事者も交えた講演会なども。地域ケアプラザ希望有り)

芽生えの活動PRについて

「障がい理解」をテーマにしても住民は参加しにくい現状がある。

ボランティアや地区社協などの活動者に向けたアプローチからどうか。(緑園、和泉中央地区とも前向き)

活動している人から住民の皆さんへ広がり期待できる

*居場所は相談する場としても機能を持っている。

・身近な人に相談しにくい場合も居場所で相談できる。(自然な会話の中で)

・居場所の活動、地域の活動を来所者に伝え、それがまた地域に広がっていくことにつながるのではないかな。

5グループ(交流)

【しらゆり地区 上飯田地区 主任児童委員 獣医師会 保健活動推進員 区社協(欠)】

*ペットについて

ペットの増加に伴い、ペットをテーマにした交流の取組の可能性、災害時のペットとの暮らしについて今後の検討になっていくだろうと思われる。

ペットのいる人の暮らしといない人の暮らし両方が快適になるようなことも考える必要が地
災害時の防災拠点での暮らしは「人」中心。災害時のペットはどう対応していけばいいの
だろうか。獣医師会に教えてもらいたい。 上飯田地区から獣医師会に相談有り。

*子ども:フリースペース

イベント的な活動ではなく、日常的な内容を増やしていけたらいいのではないかなと思う。
フリースペースに関わる職員の謝金について、以前は区役所がバックアップしていたが
打ち切られている。台所事情は苦しい。区社協への協力依頼。また、地区からの協力に
ついては検討できれば。

*どんな活動にも お金が必要

人がいて、場所があって活動しようとすると、ある程度の資金が必要。

資金は継続的な、行政、区社協からの援助が必要だと要望が出された。

6グループ(見守り)

【いちょう団地 上飯田団地 民生委員 ボランティアネットワーク 訪問看護ステーション 老人クラブ(欠)】

- * 見守りには、ご近所(近隣)の力が大きい。
 - ・民生委員だけではなく、例えば保健活動推進員や老人クラブ、などの組織の活動もあまた、そうした組織だけではなく、やはり、ご近所のつながりができる。(高齢者も、こどもも)
 - ・具体的な活動として、上飯田団地では、「階段掃除」時を互いの声かけの機会として活用中(月1回)
- * 人材を知り、活用とつながりを
 - ・ボランティアネットワークでは、見守りに通じる様々な活動を支える個人、団体の情報がある。会議席上でデータの提供有り。(今回の報告に資料として添えています)
 - ・団体どうしてもつながりが必要。
 - ・訪問看護ステーション 活動をPRする機会を得たい→民生委員・児童委員の定例会を活用して可能。

会長からまとめ

- ・各グループでいろいろな意見が交わされ、時間が足りないくらいの様子。今回の意見は、それぞれの活動の共通の課題であったり、一緒に取り組めるものがあったのではないかな。今後も継続的に具体的な話し合いを続けていきたい。
- ・また、話し合いの中でもできてきている、具体的なつながりの事例(協働の進んだ事例)を次回の協議会で是非報告してほしい。
- ・うまく協働できた事例、あるいはうまくできない場合でもその理由などを共有し、次の活動につなげていきたい。

③川柳・シンボルマークコンテスト、推進シンポジウム等への協力について

(福祉保健課事業企画担当 橋本係長)

昨年度の計画策定時の各地区の懇談会において、「あいさつ」がまず大事との意見が多く聞かれた。これをもとに地域福祉保健計画推進と計画周知のために、川柳・シンボルマークコンテストを行った。委員の皆さんには作品の絞込みについても御協力をいただいたところであった。区民の皆様様の投票の結果、大賞がきまり、3月1日の社会福祉大会第2部「推進シンポジウム」において発表できることになっている。また、3つの組織から活動事例の発表とパネルディスカッションもあるのので是非皆様お誘い合わせの上、参加をお願いしたい。

この川柳(テーマ:あいさつ)とシンボルマーク(テーマ:元気の出るまち泉)は今後の計画推進に活用する予定。

地区別計画において、あいさつの推進に継続的な取組をお願いしたい。

3 その他(福祉保健課事業企画担当 橋本係長)

(1)依頼事項

地区・関係機関の各組織への報告依頼

今日の協議会の議題等について、各組織にご報告をお願いしたい。

(2)次回について

次回は来年度7月ごろを予定している。日程についてはお知らせするので御協力をお願いしたい。

また、次年度の委員について変更のある場合は、5月末までにお知らせいただきたい。

4 閉会あいさつ(泉区社会福祉協議会 副会長 大貫氏)

本日の会議は和やかにできた。今日交わした意見の中で、これならできるといったところを拾い上げていけると思う。われわれはプロではないが、それぞれがそれぞれの立場で何かができればと思う。今後もよろしくをお願いしたい。